

共に生きること、 それは愛の始まり

きれいごとや道徳で描けないのを
バンクで見た。涙でした。
綾戸智恵（ジャズシンガー）

人は人を、国籍で見る人がいる。
容姿で見る人がいる。心を見る人がいる。
そして生命（いのち）をただただまっすぐに見る人もいる。
この深いまなざしが、この映画にはある。
遠藤憲一（俳優）

圧倒的なリアリズムで描かれる「介護」の今と希望の物語

過去に罪を犯した父。父に対して憎しみを抱えた娘。そして娘は数奇な運命から父親を介護せざるを得ない状況に追い込まれる…。父を介護する主人公ヨウコを演じるのは今もなお日本映画界に欠かせない女優、根岸季衣。疲弊していく女性を演じるにあたり6キロの減量に臨み、社会から孤立していくヨウコという役柄に自身を近づけるため、撮影中は監督以外のスタッフ・キャストと会話を一切せずに距離を置くという徹底した追い込み方で役作りに挑んだ。本作は監督が実際に現役介護福祉士として働きながら、そこで見たこと、聞いたこと、触れたことを経験として、厳しい現実を見据えた上で、その先にある一筋の希望を描いている。また劇中ではエンディングを含め映画音楽を一切排し、セリフも必要最低限のみで、親子のコミュニケーションはまさにタイトル通り「まなざし」を持って描かれるという挑戦的な作り方をしている。本作で描かれる家族の絆、そして人を受け入れたことから始まる小さな希望。観る者の価値観を揺さぶる美しいラストシーンに誰もが感嘆するだろう。



人を受け入れることから、人生は少しずつ良くなっていく

介護職員として田舎町で暮らしているヨウコ。その平穏な日常は、服役していた父・シゲユキの出所により終わりを告げる。長期の服役生活で寝たきりになっているシゲユキ。ヨウコは悩んだ挙句、シゲユキを家に受け入れることを決意する。シゲユキの世話をし始めながら次第に呼び起こされていく憎しみの感情。疲弊していくヨウコの姿を静かに見つめながら、シゲユキは“あること”に思いを巡らせていた。残されたわずかな時間。絶望の淵にいた二人が、視線の先に見た小さな光とは…？

監督・脚本・編集：卜部 敦史 撮影監督・脚本・プロデューサー・編集：堀井 威久磨 プロデューサー・助監督・制作：大越 康男 録音：吉永 篤史、梅村 竜矢、前田 穂高
特殊メイク：浅海 雅俊 撮影助手：今村 祈履 照明助手：染井 ひでき スチール：池田 理暮、周藤 正憲 ヘアメイク：中村 ひろ子、熊田 美和子 介護技術指導：雨下 美沙
介護協力：大越 栄子 整音：前田 穂高 英語字幕：仙野 陽子 翻訳：蔭山 歩美 題字：佐々木 皋蘭 『まなざし』（英題：The Look）2016/日本/93分 ©2016『まなざし』製作委員会
協賛：株式会社ソラスト

【映画「まなざし」開催日程】両日、卜部敦史監督来校します。！

“シンポジウム同時開催”「お隣さんからみた無縁社会における家族介護について」

- ・ 1回目：平成 29 年 2 月 11 日（土） 群馬社会福祉専門学校 両毛サテライトキャンパス
（館林市成島町 227 番地）
- ・ 2回目：平成 29 年 3 月 4 日（土） 群馬社会福祉専門学校 本校 元総社キャンパス
（前橋市元総社町 152）

* 第 1 部 映画上映 9:30~11:00 第 2 部 シンポジウム 11:15~12:45

協賛：株式会社ソラスト

